

せんでしたが、めでたく OK となりました。そんなことで盛り上がった交流会も無事終了、2 号館での二次会も大いに盛り上がりました。宿舎に帰った後は、有志で中華街に繰り出して三次会、更に K 会員の青春時代の思い出のライブハウスを探して、夜更けまで横浜の夜を満喫したのでした。

明けて、9 日(日)は浦賀から猿島の見学会。浦賀駅前に集合した後、まずは浦賀ドックの巨大な煉瓦積のドックを見学。次に市内を歩き旧川間ドックのもう一つの煉瓦積のドックを拝見しました。昼食後はチャーター船で猿島へ。途中北風が強く、海は荒れ模様、波に弄られながら東京湾の守りの要であった第二海保を見ました。それにしても、揺れる船上で船酔いしなかった皆さんは強かった!! 猿島は明治の要塞跡、苔むし、樹木の根っこに包まれた煉瓦の遺構には「兵どもが夢の後」を実感。横浜の赤煉瓦倉庫の賑わいが平和の証なら、この猿島の煉瓦も平和の印かも知れない…。などと思いつつ猿島を離れ、横須賀港に上陸して今回のプログラムは全て終了、赤煉瓦づくしの 2 日間でお腹一杯になった倶楽部員一同は半田へと帰路につきました。

最後に、横浜の皆さん、全国の皆さんお世話になりました。それから、マイクロバスと運転手をご提供いただきました大六さんありがとうございました。

宮原記

■ NEWS 02

ますます充実! 「第 3 回特別公開」

今回で 3 回目となる「半田赤レンガ建物特別公開」が 6 月 5 日(土)と 6 日(日)の 2 日間にわたって開かれました。NHK をはじめマスコミ各社の取材・放映のおかげもあり、初日から大盛況! まず第 1 日目は快晴の土曜日、出だし好調で来場者 2,100 人。第 2 日目は、朝から梅雨入りを予感させる雨の日曜日にもかかわらず前日を上回る出足で、初日よりも 2 時間早い午後 3 時の終了にも関わらず 3,000 人、二日間で計 5,100 人という予想を大幅に上回る来場を頂くことができました。

今回の目玉は「画家 杉本健吉の世界」。画伯は惜しくも今年 2 月に亡くなりましたが、生前はこの赤レンガ建物の大フ



ァンで毎週杉本美術館からの帰りに立ち寄られていました。今回、その画伯をしのぶ企画が持ち上がったところ、画伯のご家族よりこの上ないご好意をたまわり、展示は「予想以上の出来ばえ」と、関係者が自費するほどに仕上がりました。また、このメインコーナーに加えて、赤レンガ建物やカプトビールの歴史をひもとく赤煉瓦博物館、今を楽しむ倶楽部公認グッズコーナーやミニ工房、グルメコーナー、さらに色々な人が描いた絵を展示した赤煉瓦美術館(杉本画伯のお弟子さんの絵が特別出展!)や、「南吉の歩いた道『紺屋海道』」コーナーと、回を重ねるごとに企画内容も豊富に充実し、また、特別参加の半田美原郵便局コーナー、NPO「ふわり」コーナーの盛況もあって、今後の活動に確かな手ごたえを得ることができました。

今回のもうひとつの特徴は、多くの若いボランティアの参加を得たことです。半田中学校共育ネットや愛知淑徳大学の河辺ゼミをはじめとする多くの方々にも土日休みなしでのご協力をいただきました。おかげで、予想以上の来場者にも充分対抗できる活気を維持できました。

2 日目は雨天のため、場内ルートの変更を余儀なくされ、始めはややもたつきましたが、程なく順調に流れ始めて、これも今後の運営に貴重な体験と自信を与えてくれました。一方、案内パンフレットの品切れ、展示品の説明書き不足など、今後のより一層の発展へ貴重な反省課題を得ました。相変わらずの停電アクシデントについては関係者の適切な行動もあり、館内いっぱいの方々は暗黒の中で混乱もなく無事復帰しましたが、これはある意味で幸運であったというべきで、電源管理については確実な対策という課題を残しました。

今回の成功は、杉本健吉画伯のご遺族の方々のご惜しみないご協力がなければあり得ませんでした。あらためて厚くお礼を申し上げます。また、この二日間スタッフとして活躍してくださった方々、快く展示に出展していただいた多くの方々、そしてお客様としてご来場下さった方々に心からのお礼を申し上げます。

桑田記

■ Topics 「第 2 回特別公開」

会報の発行のタイミングで陰に隠れてしまいましたが、2003 年 8 月 23 日(土)24 日(日)に第 2 回特別公開が開催されました。

直前に中笠家から赤レンガ建物の棟札が発見されて大喜びしたこの公開、名誉顧問の飯田喜四郎明治村館長の座談会が開かれ、これをきっかけに登録文化財の登録(2004 年 8 月予定)へむけて大きく動き出すことになったのも、何かの縁かもしれません。

この公開ではアートプロジェクトが開催され、4 名の若手芸術家の作品が出展されました。反応は様々でしたが、赤レンガ建物の「空間を活かす」ことのうまさは誰もが認めたのではないのでしょうか。当日の来場者数は、常滑焼き祭りに押されたのか 2,400 名とやや伸び悩みましたが、第 1 回公開から変化のある公開となりました。 桑田記

■ NEWS 03

赤煉瓦建物 105 回目の誕生日

10月31日は我が半田赤レンガ建物の誕生日なのですが、ご存じですか？そして、5年前の1998年は100歳を迎えた記念すべき年でした。本来はここで盛大に誕生日を祝福をする予定だったのですが、あいにく全国大会と重なってしまったため、2003年、今度こそお祝いしよう、と、倶楽部員や関係者一同、仕事終了後に赤レンガ建物に集まりました。倶楽部員の長沢さんが特製のケーキをつくってくださり、みんなでハッピーバースデーの歌を合唱した後、ローソクを吹き消し、会長と半田市助役に仲良く手を添えてケーキに入刀をして頂きました。

山口記



■ NEWS 04

蔵のまち雛祭り in 赤煉瓦

2004年2月28日(土)、29日(日)の両日、赤レンガ建物をはじめ紺屋海道、酒の文化館、博物館酢の里など半田市内中心部11会場にて「蔵のまち雛祭り」が開催された。主催は半田商工会議所ではあるが当倶楽部をはじめ6つの団体が共催団体となり、志をひとつに2万3千人をおもてなしをする、地域をあげてのプロジェクトとなった。赤レンガ建物内では、平岡君のステンドグラスのお雛様や青山さんのトンボ玉のお雛様、乙川人形店の土雛が飾られ、他の会場とはひと味違う雛飾りに2,800人の訪れた方の関心をよんだ。また、石川副会長の友人で華道家の大辻操さんが、会場内にたくさんのお花を飾ってくださり雰囲気がいっそう盛り上げてくださった。

思いがけない展示になったが、その分赤レンガ建物の可能性を探ることができた。また、いろんなジャンルの人々が赤レンガ建物にお越しになり、倶楽部の目的の「赤煉瓦建物を生かした街づくり」を進めるいい機会となった。

永田記



■ NEWS 05

2004年新春合宿 テーマは“平成16年度の活動計画”

赤煉瓦倶楽部・半田恒例の新春合宿が平成16年1月24日(土)午後1時30分より成岩公民館にて開催されました。倶楽部の役員、各部会のリーダー、チーフ及び日ごろから熱心に活動していただいている会員の方々、約30名の参加で合宿が始まりました。

まず冒頭に長谷川寛子会長より新年の挨拶があり、早速第一部「報告事項」に入りました。最初に「登録文化財申請」について近々市より申請する予定であること、また登録されても建物の活用の際に大きく制約されるものではないことの説明がありました。続いて馬場事務局長より万博の年の平成17年に赤煉瓦ネットワーク全国大会を半田で開催することが決定したとの報告がありました。

続いて、第二部「審議事項」に入り、メインテーマ「平成16年度の活動計画」について議論しました。特に第一部で馬場事務局長より報告のあった来年の半田で開催決定の全国大会について議論が集中しました。参加者のうち10名は昨年10月の横浜大会に出席しており概要がわかっているだけに来年の半田大会に向けて色々な提案がありました。馬場事務局長より「今年の10月に予定されている北海道の江別大会までに詳細な計画を決定して発表したい。万博に合わせた開催となるが全国大会はあくまでも赤煉瓦ネットワーク自身の行事であり、全国から参加される方のニーズに最大限応える企画をまとめたい。今後時間をかけて議論したい」との発言がありました。

続いて、永田事務局長より①蔵のまち雛祭り②建築士会50周年行事③蔵のまち再生プログラムについて経過報告があり、参加者より倶楽部として積極的に各イベントを盛り上げようとの意見が活発に行われ、長時間に渡った検討会も午後6時30分に無事終了しました。

その後懇親会に移り、老若男女和気あいあいとした雰囲気で行われ、気づいたときは夜も9時過ぎ。本年度の新春合宿も大成功に終え、新たな年に大きな期待を寄せることができそうです。

馬場記

■ 赤煉瓦倶楽部半田規約

[会の名称]

赤煉瓦倶楽部・半田

[目的]

- ・ 貴重な旧カプトビール赤煉瓦建物及び明治の旺盛な起業者精神を後世に引き継ぐこと
- ・ 山車、蔵と並ぶ半田のシンボルとして、赤煉瓦建物を生かした街づくりを調査・研究すること
- ・ 赤煉瓦建物に関係するネットワークと連携し、赤煉瓦建物を生かした街づくりを支援すること

[会費]

- (1) 入会金 1,000円
 - (2) 年会費
 - ①個人会員 1,000円
 - ②法人・団体会員 10,000円
- * * 団体は10名以上

[活動年度]

- ・ 毎年7月1日～翌年6月30日
- ・ 総会は、毎年1回開催する

[運営]

- ・ 会の運営にあたり、会長、事務局長、事務局長補佐、会計を置く。
- ・ また、必要に応じて専門係を置く事ができる。

■ 編集後記

今年2月より、パソコンのメールアドレスを連絡して下さった方に不定期で赤煉瓦 NEWS というメルマガの発行を始めました。5月からはホームページにも掲載しています。この会報もメルマガ調にまとめました。赤煉瓦倶楽部の「今」をお伝えできるといいのですが.....
(Y)

■ 広告募集

当倶楽部のホームページや機関紙に広告を掲載していただける企業や団体を募集しています。
1 枠 年間 5,000 円
集まったお金はホームページの管理費や機関紙の発行費用に充てます。



■ 特集

**カプトビールとは
一体どんなビール？**

事務局長 馬場信雄

皆さん知っています？「カプトビール」が明治時代に五大ビールメーカーの一家だったことを。

ちなみに五大ビールメーカーとは、サッポロビール、エビスビール、キリンビール、アサヒビールそして我が半田のカプトビールでした。半田で生まれたカプトビールは結局企業再編の波で大資本に吸収されましたが、ひょっとすると現在の大ビールメーカーになっていたかも知れません。明治 20 年に四代目中埜又左衛門の発意で始めたビール事業「丸三麦酒」は地元の資本家たちの出資を得て明治 31 年に当時の三大建築家の一人である妻木頼黄の設計による壮大な赤煉瓦ビール工場を建設しました。そして、ドイツビールにこだわりドイツ式の醸造機械、ドイツ人の技師を導入しました。品質は五大ビールメーカーの中でも大変優秀であったと言われています。

さて、当時のカプトビールの味はどんな味だったのでしょうか？実は 6 月 5 日 6 日に開催された「第 3 回特別公開」に「わしはカプトビールを飲んだことがある」という方が現れました。その方は若いころよくカプトビール工場の中に仕事で入られていたようです。「当時はのお！ 中へ入るとひやっとしたでのお！全体が巨大な冷蔵庫のようじゃったよ。それでたまにビールを飲んだよ！ 2 種類あってのお！ ひとつは今のビールに似とった！ もうひとつがうまくてのお！ 色は黒ビールみたいな色やったのお！味は少し甘くて苦味が多かった。しかしのお！いくら飲んでも今のビールみたいに腹が張ることはなかったですよ！」と見るからに懐かしい！！という顔で話してくださいました。

当時のビールについて触れている文献を見ると当時のビールはモルト比率が高く濃く仕込まれたビールで「色沢鮮麗芳香優美」と評され、やはりビールの色は濃く赤褐色をしていたようです。いずれにせよ現在のビールとは全く異なるビールであったことは確かです。ぜひ一度タイムマシンで昔にもどって当時のビールを味わってみたいものですね！！



■ 赤煉瓦倶楽部半田 平成15年度決算

収入	(円)	支出	(円)
前期繰越金	73,207	通信費、事務費	89,073
年会費、入会金	97,000	赤煉瓦ネットワーク年会費	20,000
Tシャツ、帽子売上金	7,000	サーバー使用料	26,460
ポストカード売上金	218,400	次期繰越金	260,074
合計	395,607	合計	395,607
寄付金	(円)		
	100,000		
(累計)	269,500		以上



全愛知県赤煉瓦工業協同組合
〒447-0863 愛知県碧南市新川町3丁目85番地
TEL・FAX (0566) 41-1276
E-Mail : office@akarenga-aichi.or.jp
WWW : http://www.akarenga-aichi.or.jp



吹きガラス、とれぼ玉教室

半田市青山4-23-10 TEL.0569-28-8216